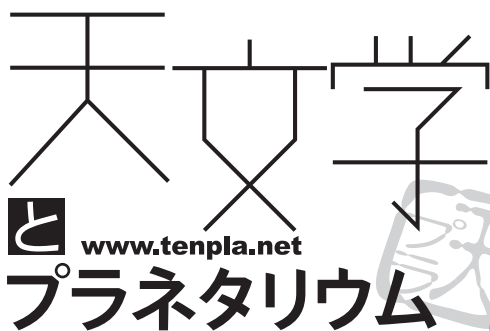




今月のお題

.....

☆ 高梨 直紘 (東京大学) / 平松 正顕 (国立天文台)

vol.
209

3年前から、大学院の講義で「科学プレゼンテーション・ライティング演習」なる科目を担当しています。3日間連続で行う集中講義で、毎年、10-20名程度の理系の学生さんが受講してくれるのですが、これがなかなか楽しい。

残念ながら、この講義を受講したところでプレゼンテーションやライティングの技術はきっと上がりません。担当教員の私が言うのだから、間違いない。では、いったいなにを目的としているのかと言えば、それは、人々と科学のつなぎ方をデザインする力を身に付けること。その力が備わっていれば、聞かせるプレゼンや読ませる文章はもちろんのこと、もっと幅広く、科学と人々のすてきなかわり方を産み出すことができるに違いありません。たぶんね。

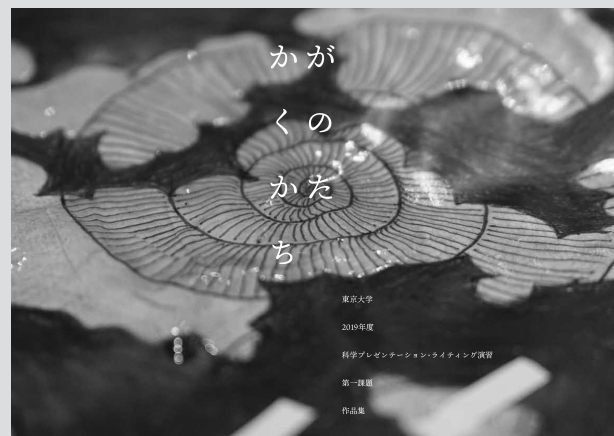
でも、どうしたらそのような力が身につくのでしょうか。たった3日という限られた時間内では、どうしてもできることは限られます。そこで考えたメソッドが、いちどすべてをばらばらにすること。「人々と科学をつなぐ」と言っても、単純ではありません。どのようなつなぎ方があるのか、科学とはなにか、そもそも人々とは…。これらの構成要素をパーツ毎に切り分けて、ひとつひとつをよく吟味し直し、他の人の組み立て方を学んだ上で、自分でも改めて組み立ててみる。その体験が、ひいては人々と科学のすてきなかわり方をデザインする力になっていくと考えたわけです。

そのためにお招きした強力な助っ人が二人。美術家の小阪淳さんと、コピーライターの片桐暁さんです。誰?と思ったあなた、「宇宙図」で検索をかけてみて下さい。天プラの主要なプロジェクトのひとつである宇宙図制作の中心メンバーのお二人です。理学を専門としているわけではない(にも関わらず、とても造詣の深い)彼らの視点や、その思考の広げ方には、たくさんの学びがあります。学生さんたちには、そんな彼らと一緒に絵を描いてみたり、言葉を紡ぎ出したりする経験を通じて、さまざまなことを学び取ってもらおうという魂胆です。

実はここでやっていることは、天プラの面々が宇宙図制作を通じて経験したことの追体験でもあります。宇宙図制作に取りかかった2007年、当時はまだ初心な大学院生だった私たちは、小阪さん、片桐さんに会って大きな衝撃を受けました。クリアな思考、科学を俯瞰する視点、バイタリティー、そしてなによりも純粋な知的好奇心。天文学の狭い世界の中でそういった大人に出会ったことのなかった我々は、数え切れない回数の議論や、半年間で6000通近くに及んだメールのやりとりを通じて、プロフェッショナルとはこういうものかということ学ばせていただきました。そのエッセンスの一部でも、学生さんたちに共有できれば嬉しいなと思って講義を行っているわけです。

てんもんがくのすがた?

良いコミュニケーションに必要なのは、自身の信念、他者への理解、そして伝える技術の3本柱。これをどうやったら鍛えることができるのか、試行錯誤の様子をご紹介します。



小阪さん謹製、提出された課題を取りまとめた小冊子です。贅沢。

最終発表課題

小阪・片桐・高梨を相手に
自身の研究の「価値」について
プレゼンをして下さい

持ち時間は5分、パワポでなくてもOK
発表後、資料を提出して下さい

講義の最終発表の課題は、小阪さん、片桐さん、高梨に対して自分の研究の価値をプレゼンするというもの。とっても味わい深いプレゼンが聞けます。

さて、講義のハイライトのひとつは、「かがくのすがた」を描いてみようという課題。学生さんたちが、それぞれに持っている「かがく」のイメージを絵に描いてみて、それについてプレゼンするという課題です。ここでわざわざ平仮名で「かがく」としてあるのは、客観的に定義される辞書的な意味での「科学」ではなく、学生さんひとりひとりが持っているその人だけの科学のイメージを意識しているから。自分事として科学を語ることが良いコミュニケーションの第一歩であると考えた時、まず自分自身の科学に対する眼差しを知ることがとても大切だと考えてのことです。実際に描かれた絵を見ても、その内容はまさに千差万別。自分とはまったく違う、他の学生さんの絵を見ることで彼我の違いを知る事もまた、良いコミュニケーションのために必要なことだと思います。

ここで述べてきたことは、「科学」を「天文学」に置き換えても、同じこと。天文学と人々をつなぐ形をデザインする時にも、やはりこういったことが役立つはず。私たちはそれぞれに、多様な「てんもんがくのすがた」をイメージしているはず。それを互いに尊重し、理解を深めて行くことが、両者のよりすてきな関係を創り出す上でとても大事なことです。そのようなことを改めて考えさせられた3日間でした。